

# 日本語教育

服部グループ代表  
服部 良男 氏



## 教育随想

一九六七年八月、高校一年生のとき、縁があつて、アメリカの高校へ留学する機会を得た。一九六七年といえ、ベトナム戦争中であり、中国では、文化大革命の紅青四人組が勢力を誇っていた時代である。一ドルが三百六十円程度で、外貨持ち出しは二百ドルが限度であつた。アメリカでは最初、ベトナム人に間違われ、「違う」と言うのと、「中国人か」と問われた。「日本人だと言うと、「どこにある国だ」と聞かれるといった状況であつたが、私はそこで素晴らしい異文化経験をした。一年で帰国後、大学で金属工学を専攻し、大学院を経て、一九七九年に、アメリカの経営大学院、いわゆるビジネススクールを卒業した。

このアメリカでの経験がきっかけで、一九九二年に、外国人のための日本語教育施設「YAMASA 言語文化学院」を開校し、今年四月で二十二年目に入った。学校法人服部学園を設置母体とした、この地域唯一の日本語教育の各種学校である。開校以来八十一か国からのお客様をお迎えし、毎年延べ数百人の修了者がいる。欧米系のお



平成 26 年 5 月 1 日

## 5 月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
服部グループ代表 服部 良男氏	
この人に聞く……………	2
日本さりえ協会常任委員 愛・地球博出展 坂部 信子氏	
羅 針 盤……………	2
野外活動指導員 高橋 誠	
ふれあい……………	3
六ツ美中部小 青木 麻紀	
特 集……………	4
新入生を守れ！ 小学校の交通安全指導	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー… 相撲体操（昭和 59 年）	8
この本を……………	8



お客様が過半数を超えるが、アジア圏からのお客様も多い。開学当初は、コンピュータの技術者が多かったが、最近、アニメ、漫画の愛好者も増えてきている。基本的にはインターネットで直接海外から募集しているが、最近岡崎市を中心に、在日ブラジル系の方が就職のために入学し、日本語を勉強することも多くなった。

国際理解ということで、岡崎市の小学校を学生が訪問し、交流を行う機会も多く、岡崎国際交流協会の日本語教育のお手伝いもさせていただいている。近年は、自動車製造関連企業の海外からの技術研修者の日本語学習者も急増している。

この数年特に目立つのは、三河在住外国人子弟の高校進学相談や依頼である。この三月にも二人の卒業生が、無事希望の高校に進学した。この問題は、今後、三河で唯一の日本語学校である YAMASA 言語文化学院が、公立の学校と協働して、取り組んでいかなければならない使命であると考えている。

日本企業が工場を海外に移転して国際競争力をつけていくための人材育成と、地域の子供たちが安心して、高校や大学に進学するためのお手伝いを新たな課題として、岡崎市のために精進していきたい。

（はっとり よしお）

# 人に聞く



## 伝わる温もり

日本きりえ協会常任委員  
愛・地球博出展

坂部 信子 氏

モノクロームの白や黒と、赤や青や黄の有彩色のコントラストに、目と心を奪われる。

「これは、羽黒山の五重塔です。これが主人で、これが友人です。途中で雨が降ってきて……。」

まるでアルバムをめくるように、作品の思い出を語ってくれた。

坂部さんときりえとの出会いは、四十年前にさかのぼる。

「小学校のとき、一人の先生に出会って、絵が大好きになりました。中学校のころ、油絵をはじめました。結婚しても続けたい、と思っていましたが、油絵の具は匂いがきついでしょう。子育てしながら続けるのは無理だと思い、諦めていました。そんなとき、大阪の友達がきりえを教

えてくれたのです。匂いもないし、新分野で面白いと思いました。」

当時、アートとしてのきりえは、愛知ではほとんど普及していません。独学で制作を始め、三年後には大阪で開かれた講師養成講座を受け、本格的にきりえを学んだ。

「先輩がほとんどいらっしやらないので、割と自由におもしろいトライができました。」

日本の郷愁を描くそれまでのきりえのイメージにとらわれることなく、独自の感性で作品づくりをしてきた。題材を探すために旅したアジア各国での出会いが、作品づくりの大きな転機となった。

「アジア紀行がテーマの作品制作のときに吹っ切れました。昔は黒のキヤンソン紙(洋紙)を使っていたのですが、しつくりこなかったのです。生成の紙を、藍や胡桃の染料で染めて、よりイメージに合ったものを求めるようになりました。」

坂部さんは、きりえの魅力をこう語る。

「絵はどんどん絵の具を重ねていくことができる。でも、きりえは最初から全てのイメージを膨らませて、切り取って形にしていく。その潔さが好きです。でも、いちばんの魅力は人と出会えることですね。きりえをやっているなかったら、こんなにいるんな国に行かなかったら、こんなにかんなにたくさんの人と出会えなかったらどうから。」

坂部さんの作品には、旅先で出会

った人、家族や友人など、人を題材にしているものが多い。それらは、どれも魅力的で力強く、見る者の心を温かく穏やかにする。

「これは、インドで出会った羊飼いの女の子です。奥にいるのが、この子のお姉ちゃんです。けんかでもしたのかな。ずっと泣いていたの。その表情が、何とも言えずかわいかったから、その場でスケッチしたので。それをもとに制作しました。」

何気ない人々の、何気ない生活の一場面が坂部さんの心の琴線に触れたとき、作品が生まれる。坂部さんの作品からは、全てを受け入れ生きることの喜びとる姿を感じる。

「私は人が好き。何か感じる人に出会うと作品にしたいと思うのです。わたしの作品はどれも、暮らしの中から生まれてきます。」

坂部さんの作品から感じる温もりは、坂部さんの人を愛する気持ちそのものだった。



氏名 さかべ のぶこ  
生年月日 昭和十九年十月一日  
住所 岡崎市戸崎町

# 羅針盤

「当たり前」が「有り難い」

野外活動指導員

高橋 誠

「くべる」と聞いて意味が通じるだろうか。「くべる」とは、「何かを火で燃やす」ことを意味する。たき火や焼却炉使用の禁止、電子レンジやIHコンロの普及と、子供の日常からどんどん「炎」が遠ざかっている。A小学校では、火を自分の手で作り出すことに挑戦した。使ったのは舞切り式火おこし器。棒と、中央に穴の開いた板を十字に組み、縦棒の頂点と横板の両端をひもで結んで作った道具である。着火用に用意したのはおがくずや綿。指導員の解説のあと、三、四人の班に一器ずつ配り、一斉に取りかかった。



「いっち、にっ。いっち、にっ。」リズムに合わせて、横板を上下させる。「早くう。もう交代だよ。」

初めのうちは一人ずつ挑戦してい



## 努力したその先に

六ツ美中部小 青木 麻紀

卒業式が、三週間後と迫った日、学級で呼びかけの言葉の分担をしたときのことだった。

「『マラソン大会に向け、自分の弱さに負けず毎日走った』というところを言いたい人はいますか。」という私の問いかけに、A男は、にやにやしながら手を挙げた。そして、そのままA男が担当になった。

すべての言葉の担当が決まると、さっそく読み合わせをした。A男は、たった一文を三度もつまずきながら読んだ。その表情は終始緩んでいた。ユーモアにあふれたA男だが、実は気が小さく、失敗を常に恐れている。だから、本気になって努力することがあまりない。呼びかけも同じように捉えていることが、見てとれたのだ。

そんなA男が、卒業式に向けて、精一杯努力することを願って、練習を促すための音読カードを配った。だが、一週間たってもA男は変わらなかった。

私は、その姿に、マラソン大会での彼の姿を重ねた。その気になれば一位になれるはずなのに、A男は練習で手を抜き、毎年二位以下に甘んじていた。けれども、今年度は二位でゴールした途端に泣き出したことを、鮮明に思い出した。

私は、A男に問いかけた。「どうして『マラソン大会に向け』の言葉を選んだの。」黙っているA男に向かって、私は続けた。

「マラソン大会のときのことが心に引っかかっているのではないかしら。あのとき、なぜ泣いてしまったのかな。」

「ちゃんと練習すれば良かったと思っただから。」

A男はぼつりと答えた。

「それが、後悔っていうことだよ。卒業式で上手く言えなかったと後で思っても、取り返すことはできないのよ。」

その日からA男は、給食を食べ終わると友達を相手に、練習をするよ

うになった。「家での練習に気が向かないなら、学校で練習すればいい」とアドバイスしたことを、素直に実行しようだ。

「堂々とと言えるようになったね。さらに、大切な言葉がどれか考えて、強く言ってみるといいよ。」

そうした声をかけると、ますます意欲的に練習をするようになった。

その数日後、学年練習で、言葉を使い終えた彼は私の方を見た。その瞳は自信に満ちて輝いていた。私は彼に向かって、うなずき返した。

そして、卒業式当日。張りのある声を体育館に響かせ、A男は巣立っていた。



た。「あっ、煙が出てきた」「疲れて力が入らん。誰か手伝って」板を押す女の子の手に男の子が手を重ね、歌のリズムに合わせて必死に動かす。「見てっ、赤い火種がでてるよ。」

このチャンスを逃すまいと、班員が素早く着火用の材料を準備する。自然に子供たちは協力する。「そおつと長く吹くんだよ」できた火種は汗と涙の結晶だ。ごほごほと煙にむせ、涙をぼろぼろ流しながら息を吹き掛ける。固唾を飲んで仲間が見守る。その瞬間、ぼわつと火がおこった。「やったあ」と歓声が響いた。

石で炉を組み、直火で薪をくべて炊飯ができる少年自然の家。実は、それが可能な施設は全国でも少ない。訪問では、この「炉組みと薪くべ」についての指導依頼がいちばん多い。指一本で火が付き、ご飯が炊けるのはもう「当たり前」である。しかし、本来それはとても「有り難い」ことだ。自然の中で、不便さを楽しみに変えながら、「当たり前」の「有り難さ」に気付かせる。山の学習ではそうした気付きを大切に、自然や施設、そして人に感謝できる心を育てたい。

親と離れ、非日常的な時間を仲間と自然の中で過ごす。行く前と子供が変わった、そんな学びと育ちのある山の学習を作り上げてほしい。



▲自動車教習所で行われる交通安全教室（上地小）

市内四十七校の小学校へ三六〇〇人を超える新一年生が入学した。保護者と一緒に登園していた保育園・幼稚園のころと違い、真新しいランドセルを背負った子供たちが登校する姿には、頼もしさと同時に少しの不安を感じることもある。だからこの時期、市内では様々な交通安全指導が実施されている。

自動車教習所の協力を得て実施されている横断歩道の渡り方などの指導、入学式後の時間を活用した腹話術による講話や安全帽子の授与が行われている。また、運動会や春の交通安全市民運動と関連させて、児童の演奏に合わせたパレードを関係諸機関と共に行い、啓発運動を推し進めている学校もある。教員による通学路の点検活動は、毎年実施されている。そして、交通量の多い交差点や学校の正門前などでは、毎朝のように、交通指導員や、学区見守り隊などのボランティアによる登校時の安全確保がなされている。

さらに、授業として生活科や総合的な学習の時間などで学ぶ機会もあり、子供たちは交通安全について、様々な場面で体験しながら学ぶことができる。

「学区の子供は、学区で守る」を合言葉に、地域と保護者、学校が協働して子供を守ろうとする姿には、県内でも交通事故者数が多いこの地だからこそその意識の高さが表れている。明るく、元気に登下校する子供たちを見守るやさしい目には、岡崎ならではの地域の温かさを感じる。これからもこういった活動が続き、子供たちの安全が守られていくことを願うばかりである。

### 入学式での交通安全指導



▲交通安全帽子の授与（六ツ美南部小）



▲交通指導員による腹話術の講話（豊富小）



▲駐在所員による講話（竜谷小）

### 交通指導員やボランティアによる見守り



▲ 踏み切りの渡り方指導 (山中小)



▲ 登下校の安全指導 (男川小)

### 授業での交通安全指導



▲ 福祉・交通安全の視点から学区について考えた授業実践 (井田小)



▲ トラックを用いた死角体験 (矢作東小)

#### 授業を受けた子供の感想

学区の横断歩道で、車の数を調べたり、お年寄りや障がいのある方に取材をしたりしました。自分が行動することで、少しでもよい学区にしていきたいと思いました。小さい子たちと毎日一緒に登校するので、危険なところはしっかり教えてあげて、安全に登校したいです。

(井田小6年生 圓山菜摘)



▲ 校庭を使った自転車の乗り方指導 (形埜小)

### 関係諸機関と連携した啓発活動



▲ パトカー先導で行われるパレード (大門小)



▲ 学区全体を歩くパレード (福岡小)



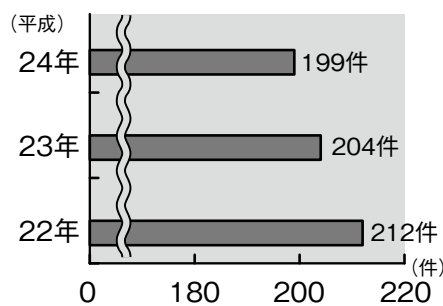
▲ 警察音楽隊の吹奏楽演奏会 (城南小)

#### 佐藤隆之さん(市役所 安全安心課)の話

安全安心課や交通安全協会などが中心となり、各小学校区でのパレードや季節ごとの市民運動など、交通安全の啓発に努めています。

それぞれの学区で交通安全指導が行われていますが、子供を守りたい一心で、先生方や保護者の方が車道へ出るのは危険です。子供たちも、先生方や保護者の方も、安全に気をつけて見守りをしていただけたらと思います。

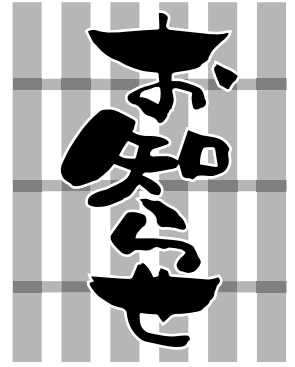
#### 岡崎市内で発生した15歳以下の交通事故件数



資料：財団法人 愛知県交通安全協会

○市内全体で、毎年2000件以上の交通事故が発生し、そのうち約10%が、15歳以下のものである。

○学校や地域の要望により、歩行者用信号や横断歩道、通学路帯(グリーンベルト)の設置も進んでいる。また、ボランティアによる登下校時の見守り等のおかげもあって、事故発生件数は年々減少傾向にある。



●教科書採択

○教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十四か所の教科書センターで、開催される。

県教育委員会では、県民の教科書に対する理解や関心を深めるために、教科書展示会を開催する。なお、障がいのある児童・生徒の教科書については、愛知県総合教育センターで展示する。

岡崎地区の教科書センターは、岡崎市中央図書館内にある。展示会も、中央図書館で行われる。展示会場には、投書箱が用意されている。教科書に対する意見や要望を投稿することができ、教科書について広く意見を聞く場となっている。



岡崎市中央図書館  
岡崎市康生通西四一七十一

☎二三一三一一

・展示期間  
平成二十六年六月十二日(木)  
～七月五日(土)

※休館日を除く

・展示教科書  
検定済みの教科書

○教科書改訂の予定

今年度、小学校は教科書採択の年となり、中学校は平成二十七年年度の予定である。使用開始は、それぞれの採択の翌年になる。現教科書は、小学校は今年度限り、中学校では、今年度を含めて二年間使用される予定である。

●表彰

◆第16回キューブ活用コンテスト  
努力賞

愛宕小

たんぼぼ・あじさい学級

◆第4回フライングフットボール  
作戦コンクール(全国)

愛知県大賞

六ツ美北部小五年

榎本一真・稲垣優吾・佐々木望

岡本愛加・近藤美祈

◆第14回全国中学生創造もの  
づくり教育フェア

優秀賞

新香山中二年 恩田 遥希

◆平成25年度優良少年消防ク  
ラブ・指導者表彰

優良賞 美合小学校

◆東海ブロックU14クラブチャ  
ンピオンシップ男子バレー

ボール大会

優勝 岡崎選抜チーム  
(竜海中・矢作中・矢作北中・竜南中)

◆第14回東海ブロック中学生  
バレーボール新人大会

男子の部 優勝

竜海中学校

◆第8回東海中学校選抜卓球大会

団体女子 三位  
北中学校

◆第26回管楽器個人・重奏コ  
ンテスト本大会(中部日本)

石川県吹奏楽連盟実行委員長賞

オーボエ独奏

美川中二年 加納 央都

金賞

サクソフォン独奏

竜美丘小六年 布藤 愛望

◆第16回日本ジュニア管打楽  
器コンクール

全国大会出場

クラリネット八重奏

サクソフォン四重奏

北中学校

◆第26回管楽器個人・重奏コ  
ンテスト愛知県大会

金賞

クラリネット八重奏

金管八重奏

美川中学校

サクソフォン独奏

竜美丘小六年 布藤 愛望

竜海中二年 柘植ゆきの

北中二年 川瀬 奏子

オーボエ独奏

美川中二年 加納 央都

●平成二十六年度校長会役員

〈小中学校長会〉

会長 野田 光宏(竜海中)

副会長 太田 恭子(連尺小)

内田 義和(葵 中)

山口 和雄(矢作南小)

近藤 博之(矢作中)

顧問 岡田 豊(井田小)

会計監査 山田 禮子(根石小)

伊藤 直也(城北中)

増澤 徹(岡崎小)

加藤 政幸(翔南中)

内田 幹也(六名小)

澤田 祥明(美北郡)

宇都宮森和(河合中)

田中 俊二(大樹寺小)

内田 尚之(常磐東小)

平岩 浩文(奥殿小)

鈴木 武(細川小)

中根 俊忠(美北郡)

本田 浩登(上地小)

入山 定之(豊富小)

栗田 正明(宮崎小)

渥美久美子(広幡小)

鈴木 実俊(福岡小)

山本 知子(緑丘小)

藤原 照郎(常磐中)

平岩 和博(額田中)

栗田万砂男(南 中)

岡部 克彦(美北中)

杉田 吉男(新香山中)

永田 勲(竜南中)

〈小学校長会〉

会長 太田 恭子(連尺小)

副会長 山口 和雄(矢作南小)

山田 禮子(根石小)

会計監査 平岩 浩文(奥殿小)

庶務 内田 幹也(六名小)  
 会計 金指由香里(小豆坂小)  
 会計補佐 山本 知子(緑丘小)

〈中学校長会〉

会長 内田 義和(葵 中)  
 副会長 近藤 博之(矢作中)  
 伊藤 直也(城北中)

会計監査 平岩 和博(額田中)  
 庶務 加藤 政幸(翔南中)

会計 宇都宮森和(河合中)  
 会計補佐 永田 勲(竜南中)

〈専門委員会〉

法制 荻野 款司(北 中)  
 教育条件 加藤 政幸(翔南中)  
 学校経営 宇都宮森和(河合中)

進路 中村 公治(東海中)  
 保体 鈴木 実俊(福岡小)  
 福安 高橋由美子(山中小)

給食 長坂 洋人(岩津中)  
 生徒指導 岡部 克彦(六美北中)  
 特別支援 栗田万砂夫(南 中)

広報 山本 知子(緑丘小)

●平成二十六年特別委員会

平成二十六年度は以下の十一委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

・月報「岡崎の教育」編集委員会

長 山田 禮子(根石小)

副 菅沼 健(夏山小)

・教員の研修に関する委員会

長 荻野 卓寛(北野小)

副 杉田 吉男(新香山中)

・資質向上研究委員会

長 加藤 政幸(翔南中)

副 荻野 款司(北中)

・情報教育推進委員会

長 本間 茂夫(岩津小)

副 宇都宮森和(河合中)

・郷土読本編集委員会

長 松浦 良昭(城南小)

副 後藤 充人(矢作西小)

・授業改善委員会

長 田中 俊二(大樹寺小)

副 蜂須賀 渉(男川小)

・英語が話せるおかざきっ子研究委員会

長 十河 幸代(恵田小)

副 福田 貴子(本宿小)

・学校評価委員会

長 山本 満夫(六美南小)

副 和田 実(美川中)

・ESD研究委員会

長 内田 幹也(六名小)

副 小島 寛史(竜谷小)

・科学の心を育てる委員会

長 柴田 昌一(愛宕小)

・教員免許更新特別委員会

長 中村 公治(東海中)

その他の関係委員会等

・岡崎市教育支援委員会

長 栗田万砂夫(南中)

副 武田 正道(大門小)

・岡崎市特別支援教育連携協議会

副 澤田 祥明(六美北部小)

委 酒井 洋一(矢作北中)

・岡崎市いじめ・不登校対策協議会

会 都筑 祐一(梅園小)

副 岩附 広行(矢作東小)

●平成二十六年度研究発表校

今年度の研究発表校は、市

委嘱の発表校が四校、自主発

表校が五校である。また、二

校が紙上発表を行う。

◆市委嘱研究発表

常磐中学校 六月十三日(金)

「世界とのつながりを感じ、

未来へ行動する生徒の育成

〜よりよい地球を築くT O

K I W A E S Dプロジェクト

クト〜」

美川中学校 六月二十日(金)

「自らの思いを言葉にし、か

かわり合いながら主体的に

学び続ける生徒の育成―基

本的な知識・技能の習得と

その活用を図る学習活動と

とおして―」

豊富小学校 十月十五日(水)

「ふるさとを愛し、ふるさと

を守り育てる子どもの育成」

愛宕小学校 十一月十二日(水)

「目指せ スーパーサイエン

ス キッズー見たい 知り

たい 学びたい―」

◆自主研究発表

井田小学校 十月十日(金)

「井田ツキのふるさと創生

〜魅力ある『ふるさと井田』を

創造する子供の育成〜」

葵中学校 十月二十二日(水)

「学び合い、磨き合いを軸に

した、思考力・判断力・表

現力の育成―ICTの幅広い

活用法と、生徒が自ら求めて

ICTを活用する場の追究―」

本宿小学校 十月二十九日(水)

「生きる力を育む小学校英語

の創造2021〜英語が話せ

る本宿っ子をめざして〜」

矢作南小学校 十一月十八日(火)

「子どもたちの対話力を育む

学びの創造(『教師のデザ

イン力』と『対話活動の充

実』によって)―」

連尺小学校 二月十三日(金)

「ESDの視点に立ち、算数

を楽しむ子供を育む岡崎・

連尺教育―コミュニケーション能力を確かな思考力へ―

◆紙上発表

竜海中学校 二月二十三日(月)

「自ら学び、表出する生徒の

育成―コミュニケーションを取

り入れた教科学習を中心に―」

六名小学校 三月十三日(金)

「未来を生き抜く子供の育成

〜子供が主体的に気づき、考

え、高め合う活動を通して〜」

●平成二十六年度学校訪問

◆岡崎市教育委員学校訪問

・六名小学校 五月十二日

・額田中学校 六月十二日

・福岡中学校 六月二十三日

・細川小学校 九月八日

・大門小学校 九月二十五日

・宮崎小学校 十月九日

・六ツ美中学校 十月二十日

・常磐東小学校 十一月十日

・矢作北中学校 十一月二十日

・矢作西小学校 一月十五日

・上地小学校 一月二十九日

◆指導員合同訪問

・六ツ美西部小学校 六月十九日

・矢作南小学校 六月十九日

・男川小学校 十一月十三日

・矢作中学校 十一月十三日

※その他に主事訪問を予定

・カ  
ツ  
ト  
城南小 廣瀬伸子

# 相撲体操

(昭和59年)

写真提供：美合小学校



昭和五十九年、男子は秋の運動会で手作りの化粧まわしをつけて「相撲体操」を繰り広げた。美合小学区は古くから相撲が盛んで、学区民の協力により、昭和五十六年に、同校グラウンドの一角に、屋根つきの土俵が築かれた。前年度、秋の運動会で相撲の四股や仕切りを組み合わせた「相撲体操」を考案。幕内の土俵入りを真似て、化粧まわしを作り、「相撲体操」に彩りを添えた。

化粧まわしには、岡崎特産の帆前掛けを使った。染色前の白い布地に、子供たちのアイデアを生かした絵や四股名を書き入れたが、いずれも見事な出来栄であった。

今も、学校や地域の特色を生かして、創意あふれる運動会が繰り広げられている。



\*わたしが正義について語るなら やなせたかし  
ポプラ社 ￥780

心に残った一文  
正義とは何か。傷つくことなしに正義は行えない。

「なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなんて そんなのはいやだ！」

東日本大震災後、「元気をもらえる曲」として、ラジオ局に被災者からのリクエストが殺到した「アンパンマンのマーチ」の一節だ。アニメ番組の主題歌と思えない深さが感じられる。アンパンマンの誕生秘話や、筆者がこの歌詞に込めた思いが分かる本。

子供にどんな正義感を育てるべきか、自らの価値観を磨くために読みたい一冊だ。

\*「王道」ステップ1・2・3 曾山 和彦  
文溪堂 ￥1,600 (本体価格)

\*道徳の時代がきた！ 押谷 由夫  
教育出版 ￥1,500 (本体価格)

\*誕生日を知らない女の子 黒川 祥子  
集英社 ￥1,600 (本体価格)

矢作北小 石井 洋  
※価格はすべて本体価格

幼き日、お小遣いを握りしめ、カーネーションと母の大好きなチーズケーキを買って、プレゼントした。もうすぐ「母の日」がやってくる。プレゼントの品は変わっても感謝の気持ちは変わらない。お母さん、ありがとう。



# シ オ ス ア

「信号が変わるよ。左右をよく見てから渡ろうね」学校の正門前にある横断歩道での朝の一幕だ。交通指導員や保護者を中心にした見守りボランティアと教員が協働し、子供たちの安全を日々守る。

「岡崎の子は、岡崎で守る」この地域の温かさがにじみ出ているのを強く感じた。

鮮やかな色合いに一瞬で目を奪われる。シャープなイメージをもつ切り絵とはかけ離れた温かな作品がそこにはあった。人との出会いは私たちの人生を豊かにする。新しい出会いに心弾ませるこの季節。出会った人と少しずつ絆を結んでいこう。

スタートからはや一か月。子供たちは新しい環境にも慣れ、新しい友達と楽しく過ごせるようになってきた。だが一方、五月は疲れの出やすい時期でもある。ちよつと立ち止まって、大きく深呼吸させる余裕を、周りの大人がもちたい。